



全力結集で挑戦し、
未来を創る

生産振興の取り組み

スマート農業
12月6日(金)掲載予定

技術開発
12月19日(木)掲載予定

地域の活性化
1月9日(木)掲載予定

物流改善
1月23日(木)掲載予定

総合支援で生産基盤の確立をはかる

急速に変化する事業環境に対応するため、5年後、10年後を見据えて取り組むJA全農の事業を、5回のシリーズで紹介합니다。

実需者ニーズにもとづく契約栽培の拡大

持続可能な農業生産・農業経営づくりに向けて

米穀 業務用実需者ニーズを踏まえた多収米などの作付け提案や、安定取引につながる複数年・契約栽培の推進



契約栽培米の圃場(福島県)

園芸 端境期を中心に、加工・業務用野菜の生産提案・栽培推進

事例 三重県本部による「新品種生産部会」の立ち上げ

繁忙期の労力分散や、安定的な販路の確保のため、三重県本部は「新品種生産部会」を立ち上げました。晩生の多収米を選定し、生産性の向上や収益の確保に向けた生産提案をおこない、多くの担い手に、多収米の作付けを開始いただいています。

トータル生産コスト低減の取り組み

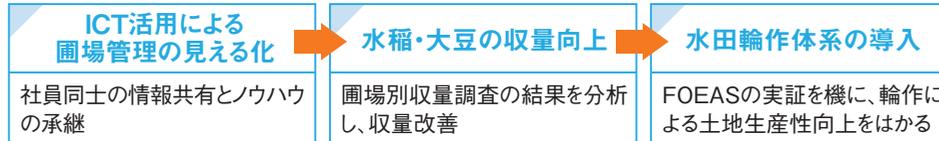
農家手取りの最大化に貢献

- 資材費、物財費の削減、労働費の低減
- 2016~2018年度の3年間、55JAをモデルJAと位置づけて取り組み
- モデルJAの取り組みで構築した県域推進体制を活用し、成果を水平展開



農家手取り最大化成果発表会(2019年2月7日)

事例 多圃場管理での水稲・大豆を主とした経営拡大と園芸作物導入(新潟)



社員同士の情報共有とノウハウの承継

圃場別収量調査の結果を分析し、収量改善

FOEASの実証を機に、輪作による土地生産性向上をはかる

担い手等の多様な農業者ニーズへの対応

TACの取り組み

農業生産振興や担い手の経営改善に向けた提案など、多岐にわたるTACの活動を支援



事業承継支援の取り組み

2017年に事業承継ブック(親子版)、2018年に事業承継ブック(集落営農版)を発行し、親世代と子世代の話し合いのきっかけづくりを支援



GAPの取り組み

産地に対して、「JAグループGAP第三者認証取得支援事業」により現地アドバイスをおこなうなど、GAP認証取得に向けた支援を実施



岩手県JAいわて平泉ブランド米部会がASIAGAP団体認証を取得(2018年10月)